

東陽中学校の ESD 活動

<活動の概要>

- ・東陽中学校区は、農業を中心に発達してきた。そのため、豊作祈願、和太鼓といった風習や文化が、歴史をもつ寺社や葦毛湿原に代表される豊かな自然とともに受け継がれてきた。一方、校区の区画整理事業が進捗したこと、市内最大の団地が存在することにより、住民の転出入も多くなった。とりわけ近年は、外国人労働者の転出入が顕著になり、本校の外国籍生徒数もここ数年90名前後を維持しており、常に多文化が混ざり合う中でバランスを取りながら日本人生徒と外国籍生徒が共生している環境にある。
- ・教科の学習内容、地域学習や学校行事等に関連づけた活動を「自然と伝統」の観点から学習を深めていく。

・活動の実際

① 自然・環境を考える活動（全校生徒）

毎年4月に朝倉川環境保全活動の一環で、本校に隣接する利兵池周辺や東陽中学校近辺の清掃活動を行っている。本年度は、雨天のため中止となってしまった。例年、生徒会執行部が当日の運営やゴミの回収・分別・運搬を行い、生徒主体の活動となっている。毎年、ボランティア生徒が100名近く集まり、空き缶やペットボトルなど、さまざまなゴミを拾っている。12月に行うマラソン大会で使用する場所でもあり、生徒たちは自分たちが使用する場所をきれいにしようと熱心に活動に取り組んでいる。



② 地域の施設に関わる人々にふれる活動（有志参加）



校区の各種行事（校区運動会、成人式など）に、有志の生徒や、芸能部が中心となって参加している。なかでも芸能部は、和太鼓やソーラン踊りの伝統の火を灯し続けるために、令和3年度から和太鼓とソーランを統合した部活動として、積極的に活動を行っており、地域との懸け橋となる役割を担っている。

最近では、活動が定着してきた結果として、校区健全育成会や自治会などでも話題にもらえる機会も増え、多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。

③ 地域に伝わる文化・歴史にふれる活動（1年生）

1年生が総合的な学習の時間を使って、5月（または6月）に行う校区探検活動である。各班で校区内外の見学地を決め、時間差で学校からスタートしている。葦毛湿原、鞍掛神社、赤岩寺、春日神社などを見学した後に学校に戻り、振り返り活動を行っている。

校区の史跡見学を通して、地域のよさを見直すとともに、レイアウトや記事を工夫しながら仲間と協力して新聞づくりを行うことで、自己有用感を高めている。

